



●発行 2021.7.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

## ■6/27、第7回「通常総会」ご報告

理事長 川岸 卓哉

本年6月27日、第7回通常総会を開催しました。昨年に引き続き、コロナ禍でZOOMを使ったオンライン開催となりました。以下、総会で承認された活動方針を中心にご報告します。

### ①発電事業

4号機は、2020年5月に完成しましたが、建設費に充てる無配当出資で集まった出資金は現在目標額に達しておらず、引き続き市民出資の募集をしていきます。また、売電利益の活用の試算についても検討が概ね完了したことから、今後の活用方法についての検討を進めていきます。

### ②セミナー・イベント

定期的に行っていたスタディツアーは、新型コロナウイルスの影響で開催時期が未定ですが、情勢をみながら本年こそは開催できるよう準備を進めていきます。学習会などの普及啓発活動も、オンライン等を活用しながら、引き続き開催する予定です。本年7回目を迎えるおひさまフェス×星空上映会も新型コロナウイルス対策を徹底しながら、実施を目指します。



### ③政策面

川崎地域エネルギー市民協議会に参画しながら、他団体とも連携し、積極的に運動を広げます。「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」の改定に向け、市に対して意見を提案していきます。また、浜岡原発の神奈川県に対する危険性の啓発活動を推進し、脱原発の世論を広めます。

### ④売電収益の用途

市民発電所1号機～4号機の売電収益については大規模な自然災害などが起きない限り、発電終了までに数百万円単位で「脱原発と自然エネルギーの普及」のために活用できる見込みです。正会員およびサポーター会員のみなさまの意見を踏まえ、売電収益を計画的に活用します。

本年、法人設立から7年目を迎えました。市民共同発電所事業の基礎となってきた固定価格買取制度（FIT）が終了し、私たちの活動は大きな転換期を迎えることになります。引き続きご協力をお願いいたします。



## ■第3回 zoom 講座「日本の再エネ」に思うこと

理事 高橋 喜宣

### ◆知ることが変える力に

「海外の事例を聞きながら、日本ではなぜこんなに進まないのかとつい卑屈にも思ってしまうのですが、知ることから変える力になるとも思います」と、第2回 zoom 講座のアンケート回答がありました。

この回答が正に3回にわたる講座の企画テーマでした。第1回「デンマーク」、第2回「スイス・南ドイツ」から、日本の再エネはどのような未来に向かうべきか。4/15、「脱原発と再エネに半生を賭けてきた」竹村英明氏にいつもと違う内容で講演していただきました。参加人数は86名。

### ◆日本にもチャンスがあったが、猛烈な巻き返しに

「原発により再エネ予算は圧縮されたが、それでも太陽光発電、風力発電の技術開発は進み、世界のトップクラスだった」と竹村氏。1992年には「市民が太陽光発電『余剰電力買取』メニューを電力会社に認めさせた」と強調。

1992年より衆議院議員秘書になった竹村氏は、飯田哲也、大林ミカ、伴英幸などに集まってもらって作戦会議、「自然エネルギー促進法」という市民運動をスタート。A4で1枚のドイツFIT法をまね、氏がA4で1枚に下書きをしました。それから各党意見が反映され、100頁近い法律になりました。

一方、1999年には与党150人、野党100人の「自然エネルギー促進議連」が設立。会長愛知和男（自民）、副会長小杉隆（自民）、事務局長加藤修一（公明）、事務局次長金田誠一（民主）がなり、竹村氏が事務局補佐として実務を担当。事務局には、河野太郎（自民）、福山哲郎（民主）の名前も。

しかし、会長、副会長も相次いで落選。そして議連会長に橋本龍太郎が就任、やがて、政府によりRPS法が導入され、この法律は潰されたのです。この結果、再エネの「失われた10年」が出現することになりました。（敬称略）

### ◆過去から未来へ

このように「卑屈にも思ってしまう」日本でも、過去に超党派でこのような動きがあったのです。今「カーボンゼロ」という美名のもと政府筋は原発復活の動きが起っています。騙されしないで、声を上げ続けること、過去から学ぶことも大いにあると、私は確信しています。



写真：京都 COP3 にソーラーキッチンを持ち込んだ竹村氏

★★

## ■トリチウム汚染水の海洋放出は中止すべきです

理事 田辺 勝義

原発から出るトリチウム汚染水の海洋放出は、放射線の内部被曝による癌や白血病などの晩発性の健康被害を引き起こすので、してはなりません。

植物・植物性プランクトンの光合成で有機物結合トリチウムになると、動物性プランクトンに取り込まれ、それを動物に摂取され生物濃縮が起こります。環境中で無機的及び有機的に濃縮されるので危険なのです。実際、原発周辺水域の魚介類から高濃度のトリチウムが検出されたとする報告があります。

トリチウムの半減期は12, 3年で、体内で水として代謝する場合は短期間で排出されます。しかし、



水素としてタンパク質や糖や脂肪組織などに有機結合型トリチウムとして入り込んでいる場合は、2ヶ月から1年位体内に止まり、内部被曝を引き起こす放射線を出し続けるのです。特にトリチウム結合脂質は体内に残存する期間が長いので、脂質成分の多い乳房での癌の発生が多いことが疫学調査で報告されています。

統計学者グループは、全米の40年間の乳癌死亡者を分析して、乳癌が増加している地域に共通する要因として、郡の所在地と原子炉との間の相関関係が存在することを見つけ出しました。また、乳癌が増加した地域は、原子炉から半径約160キロにも及ぶことを突き止めました。

トリチウムはごく低濃度でも人間のリンパ球に染色体異常を起こすことを、中井さやか氏が日本放射線影響学会（1974年）で報告しています。トリチウムを出す原発に近いほど白血病の罹患者が増加するのです。玄海原発のある佐賀県ではその患者が増えているし、北海道泊原発では、原発稼働後は道内180市町村中でがん死亡率は泊村が1位、隣町の岩内町が2位、寿都町が3位となっており、岩内湾に放出されたトリチウムが関与している可能性を否定できないのです。

以上により、トリチウム汚染水の海洋放出は中止すべきです。単なる漁業者への補償に関わる問題ではなく、それは人類への緩慢な殺人行為であり、晩発性の健康被害をもたらすことを認識しなければなりません。



## ■第7回「おひさまフェス×星空上映会 2021」の開催について

第7回おひさまフェス×星空上映会 2021 事務局長 木下 博行（当NPO正会員）

緊急事態宣言下で延び延びになっていた第1回実行委員会を6月24日に開催し、出席は9名と少なかったのですが、会議には出席できないが当日出店を希望するなどのお返事をいただいた団体もありました。

第1回実行委員会の話し合いで、**9月25日（土）開催予定**、準備にあたる暫定事務局の確認をしました。7月14日には川崎市への後援依頼を済ませ、川崎市地球環境推進室の取り組みをお聞きする場を持ちたいという要望もお伝えしました。これから本格的準備に入ります。

しかしながら、個人としての思いは複雑です。緊急事態宣言発令の中、どうしても開催したい五輪関係者から「無観客での開催」が発表されました。観客を入れての開催を予定していた自治体でも無観客という動きが主流です。どんな状態であれ強硬開催されれば感染拡大は避けられないでしょう。

多摩区では既に民家園祭も多摩区民祭も早々に中止を発表しました。あまりに急激な感染拡大とデルタ株による感染者の増加を考えると、こんな状況で実行委員会の継続及び本番開催が可能なのか？開催準備を進めることに躊躇せざるを得ません。昨年（2020年9月19日に開催）のおひさまフェスは、緊急事態宣言が発令されれば即中止と決めて進めました。今年の開催については、7月28日の第2回実行委員会で決定したいと思います。

昨年は天候にも恵まれ、完全実施が実現できて多くの方々（来場者は主催者発表1000人）に楽しんでいただき、事務局長として感動的なフィナーレを体験できました。入場を1個所に制限し、検温の実施、マスクの着用依頼など感染対策の貴重な経験も得られました。

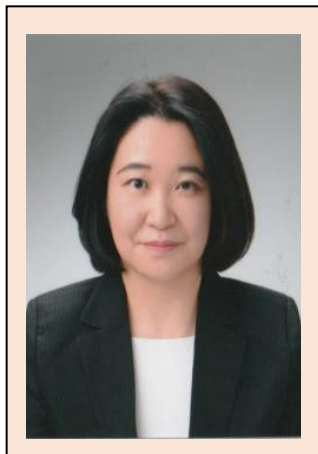
これらの経験を元に、今年は「再エネコーナー」や子どもたちがもっと楽しめる企画の充実、学生ボランティアの拡大、そして電源車（電気自動車）の複数化など、更に盛り上がるイベントとしていきたいと計画を練っています。たとえ今年実現できなくとも、次回につながる取り組みにしたいと思っています。「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」の会員の皆様のご協力を期待します。よろしくお願いいたします。



## 笠原 洋子さん（ファイナンシャル・プランナー）

一般社団法人 神奈川県ファイナンシャル・プランナーズ連合会 所属

## 私立学校教員からファイナンシャル・プランナー（FP）へ



みなさま、こんにちは。笠原 洋子です。私は東京台東区生まれ、埼玉県川口市育ち、麻生区に住んで20年になります。

大学でスポーツ栄養学を学び、縁あって東海大学付属相模高等学校・中等部で15年間保健体育と家庭科の教員として勤務しました。家庭科を教えていた時、これから先の社会を担っていく目の前の生徒達に消費者教育や金銭教育の重要性を痛感し、私自身が知識を増やすためFP資格を取得しようと思いました。

訳あって教員の仕事は辞めましたが、2010年にAFP資格を取得しました。その後、大同生命保険株式会社 渋谷支社、三井住友銀行 神保町支店・下北沢支店で営業職として勤務しました。

現在は、2015年10月に共済年金が厚生年金に一元化（実際は改悪）されたことに伴う旧共済年金加入者の方向けのセミナーや、いわゆる「年金繰り下げ」についてのテーマでセミナー講師とコラム執筆を仲間と共にしています。

この「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」を知ったのは、2017年10月7日にワークルールカフェに参加させていただいた時に鴨下元さん（かわさき発電所の理事）が持参されたパンフレットを見たからです。会の設立趣旨に賛同し、1～2回の寄付ではなく、会員として何かしたいと思いました。

最後に私の好きなものを書きます。

- ・「温泉に入ること」……源泉かけ流しの硫黄泉♨️が好きです。
- ・「猫と遊ぶこと」……ねこ派です。動物写真家 岩合光昭さんの写真展は皆勤賞！
- ・「胡蝶蘭の手入れ」……生きているうちに、蘭ガーデンを作るのが夢です。
- ・「韓流ドラマを観ること」…実力派俳優「イ・ドンウクさん」の大ファンです♥️

泣き演技に心を射抜かれ、「イ・ドンウク沼」にドはまりしています。

当分、この沼から抜け出せそうにありません（笑）

今後とも、どうぞよろしく申し上げます。

## 【編集後記】

先日、葉山へ出かけた折、海岸まで降りて海水に足を浸してみたら想像以上に気持ち良かった。地球の自然の「エネルギー」をダイレクトに感じる事ができて、童心にかえったように高揚し、感謝があふれてきた。地球の浄化作用でもある海を、人間ごときの欲によってこれ以上汚すことは許されない。自分が今できることをやろう♥️（加藤伸子）

## ■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189（川岸）

でん太通信は、ほぼ隔月15日に発行しています。

